

平田道憲（広島大）

目的 夫婦の週休パターンが夫婦の生活時間配分に与える影響を明らかにする。同一世帯の夫婦の生活時間のデータを用いて、共働き世帯の場合は夫婦の週休パターン、専業主婦世帯の場合は夫の週休パターンからみた夫婦の生活時間配分を分析する。

方法 東広島市旧西条町在住の夫婦を対象とした生活時間調査を実施：1995年12月、二段階確率比例抽出、標本160組、有効回収数113組(70.6%)、金曜・土曜二日間の生活時間ならびに個人・家族の属性、態度を調査。本研究では、夫が有職かつ金曜が労働日だった世帯について分析した。

結果 (1) 土曜が週休の場合、夫で9時間、妻で6時間の労働時間がなくなる。夫は家事労働約2.5時間、自由時間約5時間増加し、妻は家事労働約4.5時間、自由時間約2.5時間増加する。土曜が週休でない場合は労働時間が微減し、それに対応した家事労働と自由時間の微増がみられる。専業主婦の場合、家事労働が微減し自由時間が微増する。

(2) 夫婦の週休を、共働きについては「夫も妻も土曜週休なし」、「いずれか一方だけが土曜週休(2パターン)」、「いずれも土曜週休」、専業主婦について夫が土曜週休か否か(2パターン)の計6パターンに分類した。

(3) 妻の週休パターンが同じ場合、夫が週休である方が妻の土曜の家事労働時間は短く自由時間は長い。夫が週休である場合の夫の土曜の家事労働時間は、妻専業でもっとも長く、妻週休でもっとも短い。専業主婦の土曜の家事労働時間は減少はするが、時間量そのものは共働き妻よりも長い。このことを反映して、自由時間も長いとはいえない。